

# 議事録

## 第9回ひらつか地域づくり市民大学(第2回)

議題	公園・広場の遊び方～公園コミュニティづくり～	
日時	2022年1月16日(日) 13:30～15:30	作成日(2021/2/8)
場所	なでしこ公民館・八幡公民館・要公民館・岡崎公民館・市民活動センター *センターと各公民館をZOOMでつなぐ	
人数	センター参加者25名(聴講生13 法人6 市関係6)	
講師	NPO幕張海浜海岸公園を育てる会	副理事長 神谷秀美氏

テーマ 公園・広場の遊び方～公園コミュニティづくり～

### 第2回目の目的

公園や広場は、自然環境の保全、子供たちの遊び場など身近なコミュニケーションの場であるが、多様な価値観から本来の目的とは違う方向に進んでいる。今回は地域住民主体の公園や広場の魅力ある活用事例を学ぶ。

講義 公園・広場の遊び方～公園コミュニティづくり～ NPO幕張海浜海岸公園を育てる会 神谷副理事長

公園利活用の活性化を目指す千葉県の施策に協力し、実効性があり実現可能な行政施策を検討・提案する団体。

#### 本題

本来公園は自由な使い方ができるが、様々な制約があり勝手に使えないと思込んでいる人も多い。  
幕張海浜公園は本格整備が行われていない26haの県立公園であるが暫定整備されたまま放置され荒れ果てた。結果、治安も悪化したため問題となっていた。

そこで県民参加の整備アイデアワークショップを開催した。

予算の問題から何もできずにいたが、ワークショップから様々な活動が始まった。

しかし、提案したものの企画が許可されない(様々な制限。排他的に使用できない、営利目的……)。

行政の本音は「市民のクレームが怖い」

国土交通省に見解を確認したところ企画はすべて合法であるとの回答を得た。

幕張海浜公園まつりの実施にこぎつけた。

\* 社会実験としているいろいろなプログラムを持ち寄り試行した(普段は禁止されている公園利用・コースと許認可手続きの確認等)。

#### 公園コミュニティづくりのポイント

今までは人口増加を背景に量の整備を急ぐステージであったが、これからは①都市のため②地域のため③市民のために重視するステージに移行する時期にきている。

観点1: ストック効果をより高める 観点2: 民間との連携を加速する 観点3: 都市公園を一層柔軟に使いこなす

NPOを中核とした公園管理運営(調整役)

#### 社会実験と通して

子育てには大人の男性と友達の存在が必要。公園は、その出会いと交流の場になる。

行政は攻撃されやすいが、ボランティアを攻撃する人は少ない(逆に貴重なアドバイスをもらえる)。

#### 多様性を楽しむ

公園利用は私的、限定的でよい。企画運営のコミュニティの育成。責任と負担の分散。

→大事なのは個々の公園利用の可能性(やりたいこと)から考える。

公園ごとにうまく役割分担をして地域で運営すれば楽しく自由な使い方ができる→ただし、排他的、画一的にならない。

・・・法律を読んでみれば問題のないやり方がみえてくる

### 本日の講座について(アンケートより)

	なでしこ	八幡	金目	岡崎	センター	合計	比率
①期待以上だった	0	0	0	2	2	4	16.7%
②期待どおりだった	3	0	0	6	6	15	62.5%
③よくなかった	0	0	1	1	0	2	8.3%
④わからない	1	0	1	3	2	7	29.2%
未記入	0	0	0	0	0	0	0.0%
	4	0	2	10	10	24	100.0%

### 個別意見

公園をどう「活かし方」ではなく「遊び方」を考える。公園を利用するには自分を一緒に出していくことが大切。

大変な努力が伝わってきた。特に一般的に規則の多い公園の一つ一つを丁寧に遊び場に変えて来た事に熱意を感じます。

NPOであるからかも知れないが後継者を育てる努力もあると思う。その点にも触れて欲しかった。

公園が地域のコミュニケーションの場として重要と思っていたがまさにその通りでより一層強く感じ、自分が行動しなければと気付く。

この地区のなでしこ公園は地域として十分活動されていてよい公園だと思いました。組織を作ることも重要だと感じる。

公園の使い方に問題意識がなかったので公園のあり方を考えることができるようになったと思う。

お話をきいていましたら何かを始めようという気持ちが芽生えてきました。

地域の触れ合いの場そして癒しの空間になるとか感銘しました。

以上